



新年あけまして
おめでとうございます
今年もよろしく
お願いいたします



21年度ポストテスト 1月に実施予定

5月のプレテストでつまずきの多かった問題が各校の取り組みによりどこまで改善が図られてきているのか、また児童・生徒の算数・数学の授業に対する意識はどのように変化してきているのか、今回のポストテストで確認したいと思います。

2月中には調査結果を各校へ報告させていただく予定です。お忙しいところ申し訳ありませんが、調査実施へのご協力を宜しく申し上げます。

授業交流の様子から

児童・生徒の声

自分たちが質問しにくいところを中学の先生が質問してくれてよかった
(高校生)

高校での解き方、もっと簡単な解き方を教えてもらった
(中学生)

手作りのホワイトボードみたいなものを作ってきてくれてそれで説明してくれたのがとてもわかりやすかった(小学生)



テストを返された後、高校生はしっかり見直しかやり直しをしていることを知った
(中学生)



担当者授業日誌から

二期は、秋津小の5年生といっしょに勉強させてもらいました。

単元「小数のわり算」では「小数ではわれないけど、整数にすればわかる」ことから、除数と被除数を等倍して整数の除法にしてから計算したり、それを量的二重数直線図を用いて説明したりする児童の追究に感心させられました。

結局、算数で困ったときにもどる場所は既習の内容だということを実感しています。
(第二中学篠原：飯山北高、秋津小で交流)



引き続き飯山北高校の1年生で、篠原先生と一緒に授業をさせてもらっています。

数学Aの「確率」の授業において、中学で習ったことと同等の内容を扱うとき、「中学ではこのように考えたよね?」という問いかけをしていただき、生徒もうなずく姿が見られました。生徒によっては、「中学と同じじゃん!」と言いながら、自分でどんどん先へ進んでいく子もいました。

数学の「分数式の四則計算」においては、因数分解や分数の前にある「マイナス」につまずいてしまった生徒もあり、中学の内容の理解がまだまだ足りない、ということで篠原先生に机間巡視を頼み、つまずいている生徒への支援をしてもらいました。(飯山北高齋藤)

3つのコースに順に入り、解く手が止まって困っている生徒に声をかけたり、間違いに気付かず先へ進んでいる生徒に声をかけたりしています。

前時までのプリントや教科書を見るよう促すと「思い出した!」と手が進む姿があります。

高校生でも問題を解くとき「公式どうだったっけ?」と、教科書や参考書を見る生徒が、どんどん力がついていくように感じます。

中学・高校の別なく、知識をつなげることを意識して教えると効果がありそうだと考えるようになりました。

(飯山北高萩本：第三中学で交流)



授業終了後こんな質問もある。
「前期選抜には『英検』を持っていると有利ですか?」

12月になると、中3は進路決定も間近。目付きが徐々に変わってくる。中高交流だから感じる事が出来る生徒の成長である。

(飯山北高平塚：第一中学で交流)